



2022 年 5 月 10 日

稲荷物語

～ケモ耳姉妹との出会い～ 台本



癒月華×黄昏の揺り籠

設定について

・禄寿旅館(ろくじゅりょかん)

日本のとある山奥にある旅館。都市伝説として存在自体は噂されており、その噂を知った主人公が量感を探るところから物語が始まる。

人間が出入りできないように、結界を張った鳥居の奥にあり、基本的には人間ではない者のお客を対象にしている。本来鳥居を通過しても旅館のある場所にはつながっておらず、通過しても特に何も起きないが、鳥居の結界を抜けられるものは、旅館のある異世界へと入ることが出来る。過去に人間が訪れたこともあるが、それは姉妹が来る前なので、人間のお客様との接客が初めてになる2人の姉妹は主人公に興味を持つ。

・ケモ耳姉妹

後述の琴、鈴の2人姉妹。若い姉妹ではあるが、狐を獣人化した存在であり、見た目以上に永い時を生きている。同世代に比べると若い方になる。旅館での勤務はここ数年での出来事。

・琴 ケモ耳姉妹の姉。禄寿旅館の女将を務める。

普段はしっかりしているが、天然なところもある。人間で言うと、19歳頃の見た目。眼鏡をかけているが、いつもかけているわけではなく、女将としての仕事している時は眼鏡を外している。

・鈴 ケモ耳姉妹の妹。禄寿旅館の女将見習いを務める。

おっちょこちょいながら頑張り屋な一面も持つ。姉よりも年が若く、見た目も15歳位でロリータ体系。料理が得意で、山菜の採取や人間世界で食材や調味料を買いに出かけることも。

・主人公

都市伝説めぐりが好きで、今回の旅館の噂を知り、探索に乗り出した。実は幼少期の頃、両親と一緒に山登りをしていた際に、琴と会っているが、2人とも覚えていない。その時の縁がきっかけで人間が通れない鳥居をくぐる事が出来る。

・その他

主人公が働き始めてからのお客様と接する描写は省き、姉妹との交流を中心に描写。旅館の従業員も姉妹のみ登場している(今後派生作品で題材にする可能性あり)

トラック1 姉妹との出会い

■時間 14時頃

■場所 山道

1 ◇近づいてくる足音SE

2 琴 『あのー……すみません、突然お声掛けして…もしかして宿泊のお客様ですか？』
3 琴 『うーん？ え、えっと…何か返事をしていただけませんか…？』
4

5 ◇独り言を喋るように

6 琴 『ひょっとしてお客様ではなく、ただ立ち寄っただけかしら…？』
7 琴 『いや、でもこの場所へ人間が来るなんて、滅多にないことだし…』
8

9 琴 『ああっ！ いえ！ 気にしないでください、なんでもありませんから』
10 琴 『とりあえず、あなたは人間…のようですね』

11 琴 『ところで、その…先ほどから視線を感じるような気がします』
12 琴 『どうかしましたか？ 何か…あっ……もしかしてこれ、ですか？』
13

◇モフモフSE

14 琴 『この耳と尻尾…人間にとっては、珍しいですよね』

15 琴 『んー、触らせてあげたいんですけど…ここに人が居るのは不思議なんですよね…』
16 琴 『とりあえず、ここへ何をしに来たのか、あなたのことを教えてください』
17 琴 『教えていただけたら、ちょっとは…考えるかもしれません』
18 琴 『うん…うん………うんうん…』

19 琴 『なるほどなるほど…嘘は……クンクン…ついていなさそうですね』
20 琴 『あなたからは、誠実な人のような匂いがします』

21 琴 『つまり、あなたはここに宿があることを知って訪れたのですね』
22 琴 『せっかく、こんな人里外れた場所に来るなんて珍しいですし…』
23 琴 『一刻も早く宿へ案内差し上げないといけませんね』

24 琴 『なにより宿のことを知って訪れたのでしたら、あなたはお客様になりますから』
25 琴 『お客様のこと、心を込めて精一杯、おもてなし致しますね』

26 琴 『申し遅れました、私の名前は琴と申します、宜しくお願い致します』
27 琴 『これから宿…旅館へ案内致しますね』

2 ◇歩く足音SE

3 ◇歩きながら話をするイメージ

4 琴 『ここまでの道中…険しい道も多かったでしょう？』

5 琴 『人が歩くには厳しい獣道だったのではないかと思います…』

6 琴 『私ですか？ 私はどうってことはないですよ』

7 琴 『人であるお客様よりも長い時を生きていますから…』

8 琴 『でも、具体的な年齢を言いつつもりはないですからね、これは秘密です』

9 琴 『それでも性別としては女性に分類され…って、待って！ お客様、その鳥居は！』

11 ◇何か神秘的な音SE

12 ◇音は主人公にだけ聞こえている 鳥居をくぐる者は限られているので琴が驚く

13 琴 『え、鳥居をくぐれた…？ どうして…？』

14 琴 『音…ですか？ 私には何も聞こえませんでした…えっ？』

15 琴 『どうして…鳥居の結界をいとも簡単に…いえ、なんでもないです』

16 琴 『説明を続けますね、鳥居をくぐりましたので前方に建物が見えていると思います』

17 琴 『あちらが、お客様の宿泊される旅館になります』

18 琴 『それでは、このまま入り口に向かいましょう』

20 ◇旅館の入口が開くSE

21 琴 『受付はこちらになります』

22 琴 『お荷物は後ほど、妹の鈴がお部屋まで持っていきます』

23 琴 『まずは受付からお願い致します』

24 琴 『こちらの宿泊名簿にお客様の名前を記載してください』

26 ◇名簿にペンで書いている音SE

27 琴 『うん…うん…はい…お名前を確認致しました、次に…』

29 鈴 『琴ねえー！ もう掃除終わったの？ あれ？ その人だあれ？？』

30 鈴 『尻尾も何もついてないから、人間みたい…ああっ…！ もしかして外の人っ…？』

31 琴 『ちょっと待って鈴、あんまり大声を出さないで』

1 琴 『こちらの方は、わざわざ禄寿旅館までお越しくださったお客様よ』
2 琴 『今、受付しているから鈴は先に部屋までお客様の荷物運んで？』
3 鈴 『えーおしごとー？ 今休憩中なのー？』
4 琴 『もっ……後で一緒に遊んであげるから、運んでちょうだい』
5 鈴 『ほんとに！』
6 鈴 『琴ねえと遊ぶの楽しみ！ どの部屋に持っていくの？』
7 琴 『そうねえ、部屋の確認がまだしていなかったわ』
8 琴 『お客様、私のおすすめの朝露の間でよろしいでしょうか？』
9 琴 『…はい、畏まりました…鈴、朝露の間に荷物をお願い？』
10 鈴 『朝露の間だね！ りょうかい！ 待って琴ねえ、荷物を運ぶ前に…』
11 琴 『ええ、まだしていなかったわね』
12

13 ◇できれば演者様のタイミングを合わせて同時に

14 琴と鈴 『お客様、禄寿旅館へようこそ…！』

15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

トラック2 施設巡り

■時間 14時頃

■場所 旅館内

◇荷物を持ち上げる音SE

1 鈴 『それじゃあ琴ねえ、お客様、荷物運んでくる!』

3 ◇鈴の足音SE

4 琴 『鈴っ! 慎重にねー! はあ…まったく鈴は…』

5 琴 『えっと、すみません…お見苦しいところをお見せしまして』

6 琴 『私と違って、まだ歳頃の妹でして、見習いなんです』

7 琴 『もしかしたらお客様の宿泊中の間にも遊びに行くかもしれません』

8 琴 『…迷惑ならいつでも私に仰ってくださいね』

9 琴 『あ、すみません、受付の途中でしたし、私も眼鏡をしたままでしたね』

10 ◇眼鏡を外す音SE

11 琴 『説明を再開致します、宿泊の日程は、1泊2日でよろしいでしょうか?』

12 琴 『…畏まりました、続きましてお食事についてになります』

13 琴 『当館では、宿泊されるお客様に合わせてご用意おまして』

14 琴 『朝食と夕食の2回ご用意することが多いです』

15 琴 『この近くに観光する場所やお食事処はなく、当館のみとなります』

16 琴 『お客様は、人間なので朝、昼、夕の3食のお食事の方がよろしいでしょうか?』

17 琴 『はい、ありがとうございますー!』

18 琴 『お部屋へ配膳する部屋食、または宴会場や大広間でお召し上がりになりますか?』

19 琴 『本日は、他の宿泊客の予定がないので部屋食をおすすめ致します』

20 琴 『…っ! 今のは、おすすめというより強要しているようでしたね』

21 琴 『失礼致しました、お客様のお好きな方をお選びくださいませ』

22 琴 『…部屋食ですね、畏まりました。』

23 琴 『受付は以上となります。これより館内を案内致しますね』

24 琴 『ところで、今更になりますがお客様…こほん、旦那様の方がよろしいでしょうか?』

25 琴 『ふふ、それでは旦那様、どこか気になる施設はございますか?』

26 琴 『浴場ですね、私の後ろについてきてください』

1

◇足音 SE

『浴場に向かいながら他の施設も説明致しますね』

『当館にはいくつか施設がございます』

『先ほどお話致しました宴会場と大広間、娛樂部屋、サロンにお土産屋…』

『旦那様のご利用になる可能性のある場所はこの辺りでしょうか』

7

◇足音 SE

『こちらが浴場となっております』

『おそらく人の旅館では、少々値の張る宿にある檜風呂や露天風呂になるでしょう』

11

◇扉の音 SE

『右側のベッドはマッサージ用のものです』

『もしサービスをご希望でしたら、入浴前にお声かけくださいませ』

『また、内容は自室に置いてあります小冊子をご覧ください』

『これで浴場の案内は以上となります、いかがでしょうか？』

『旦那様…？ ふふつ、旦那様ったら…もう！』

『いえ、すみません…ちょっと様子がおかしくって』

『だって旦那様、案内中にずっとソワソワしているんですもの』

『言わなくても分かりますよ、私の尻尾…ですよ？』

21

◇モフモフ SE

『もう、だめですよー 勝手に触ろうとしないでください』

『今は案内中なのでから、またの機会にお願いします』

『さっ、案内を続けまして、旦那様の宿泊されるお部屋に行きましょう』

26

◇足音 SE

『あれは…鈴がお部屋の前で待っていますね、鈴ー』

『あっ、お客様に琴ねえ、案内終わったの？』

『ええ、そうそう、お客様じゃなくて旦那様と呼んで』

『はい、泊っている間よろしく願います、旦那様！』

31

1
2 琴 『改めまして、旦那様』
3 琴 『この度は人の里からお越しになり、ありがとうございます』
4 琴 『当館は旦那様の宿泊を心から嬉しく思います』
5 鈴 『絶対良い思い出になるよー!』
6 琴 『ふいぞー、いゆっくろおくつるきゅんだねら』
7 鈴 『いゆっくろー!』

9 ◇一礼する音SE

31

1

トラック3 食事(夕食)

■時間 19時頃

■場所 宿泊部屋

2 琴 『旦那様、よろしいでしょうか？』

3 琴 『失礼します、もうすぐ夕食のお時間になりますが、お持ちしても大丈夫でしょうか？』

4 琴 『かしこまりました、すぐにお持ち致しますね』

6 ◇食器を置くような音SE

7 琴 『お待たせ致します…ああっ！ すみません、ありがとうございます』

8 琴 『ですが旦那様、あまり私のお仕事を奪わないでくださいね？』

9 琴 『私、これでも当館の女将なんですから』

10 琴 『ふふっ冗談です♪ 少し、旦那様を、からかいたくなってしまうして』

11 琴 『あっ、でも、女将なのは本当ですよ？』

12 琴 『あっ、その顔は信じてませんね！』

13 琴 『それなら、女将らしくお出した料理の説明を致しますね』

14 琴 『本日のお品書きは…胡麻豆腐、けんちん汁、野菜の天ぷら、炊き込み御飯…』

15 琴 『最後に、デザートはわらび餅になります』

16 琴 『ごゆっくり…えっと、私が居ると落ち着かないですよ』

17 琴 『何かありましたら、あちらの水晶を使って、いつでもお申し付けください』

18 琴 『お部屋へ案内した時に説明ができていませんでしたね』

19 琴 『あの机の上に置いている水晶から、念ずることで私と会話ができます』

20 琴 『人の旅館では電話というものがあるそうですが、当館にはないもので…』

21 琴 『その代わりに妖術を応用したものがあの水晶になります』

22 琴 『でも、旦那様、夜中にイタズラで呼ぶのはしないでください…ね？』

23 琴 『また頃合いを見て伺いますので、失礼します』

25 ◇襖を閉める音SE

26 ◇夜を感じる環境音SG(フクロウが鳴くみたいな感じで時間経過)

27

1

トラック4 姉妹の会話その1

■時間 0時頃

■場所 姉妹の部屋

2

3

4

琴 『鈴、まだ起きてるー？』

5

鈴 『起きてるよー、琴ねえ、どうかしたの？』

6

琴 『うん、今日来た人…旦那様のことでね』

7

鈴 『あー、まさか人間が泊りに来るなんて、びっくりだよね』

8

琴 『うん、それもそうなんだけど、あの鳥居をくぐれたことが気になっていて』

9

琴 『そこがどうしても分からなくて…』

10

鈴 『うーん、たしかに…まあ、私はそんなに気にしなくていいと思うかな…』

11

鈴 『琴ねえも、あの人からは悪い妖気とか感じなかったんでしょ？』

12

琴 『そうね、嘘はついていなさそうだったし、だけど何か引かかるような…』

13

鈴 『明日には帰るんだし何もなかったら、それで良しいんじゃない？』

14

琴 『うん、そうね…他に何か気になることはある…？』

15

鈴 『うーん…旦那様とずっと遊んでみたいし、人の話を聞いてみたいなあって』

16

琴 『食材調達の時に街に行ったりしてるのに？』

17

鈴 『買い物の時にそこまで世間話できないでしょ？ 耳と尻尾も隠さないでだし』

18

琴 『明日朝食から昼食の間の時間に旦那様の部屋に行ってきたら？』

19

鈴 『え、いいのー？』

20

琴 『まあ、仕事の進み具合や旦那様の様子次第のところは、あるけれど…』

21

鈴 『分かった！ じゃあ、いっぱい遊ぶために早く寝るね！ おやすみなさい！』

22

琴 『もう…鈴は本当に遊ぶのが好きなんだから…おやすみ、鈴』

23

24

25

26

27

28

1

トラック5 食事(朝食)

■時間 7時頃

■場所 宿泊部屋

◇鳥の鳴き声 SE

◇襖を開ける音 SE

3 琴 『失礼します、旦那様、昨晚はゆっくり眠れましたか？』

4 琴 『…良かったです、ありがとうございます』

5 琴 『朝食をご用意出来ましたので、お待ちしました』

6 琴 『お品書きはきゅうりの漬物、高野豆腐、ひじき、お味噌汁、おかゆになります』

7 琴 『私からおすすめしたいのは、お味噌汁です』

8

9 琴 『どうしたのですか旦那様？ 先ほどから不思議そうに…』

10 琴 『ああ、どうしてタイミング良く来ることができたのか、ですね』

11 琴 『その理由はですね…ズバリ、妖術です！』

12 琴 『…いえ、あの、あまり真に受けないでください』

13 琴 『冗談ですから…なんで分かったのか、今から種明かしをしますね』

14 琴 『あちらに窓の先に見える、あのお部屋が厨房なんです』

15 琴 『厨房から旦那様が起きているのが見えたので、お持ちしたというのが真相です』

16 琴 『これで、ご納得いただけましたか？』

17 琴 『…もおう！ ですから、妖術は使っていないくて…』

18 琴 『…あつ、話が長くなりましたね、温かいうちに「こちらをどうぞ』

19 琴 『旦那様の為に真心をこめましたので、お口に合えば幸いです』

20 琴 『…どうでしょうか…？』

21 琴 『本当ですかっ！？ 作ったかがありました、良かったです！』

22 琴 『あまり長居するのにもよくありませんね…』

23 琴 『旦那様と話していると楽しくて時間を忘れてしまいそうです』

24 琴 『それでは、また頃合いを見て部屋に行きますね、失礼します』

◇襖を閉める音 SE

26

1

トラック6 お客様から従業員へ

■時間 14時頃

■場所 館内

◇複数人の足音SE

2 琴 『もうお帰りになるんですね…』

3 琴 『久しぶりのお客様だったので、その…寂しく感じます』

4 琴 『あの…もし、よろしければ…旦那様、またお越しいただけますか？』

5

6 鈴 『琴ねえ、旦那様は、あっちの人なんだから、あんまり引き止めちゃだめだよ』

7 琴 『そうね、ここは女将としてお見送りするところよね』

8 鈴 『うんうん、そうじゃないと旦那様に気を遣わせちゃうもん』

9 鈴 『旦那様、また、さっきの昼食を食べに行った時みたいに鈴と一緒に遊んでね！』

10 琴 『本当に鈴は嬉しかったのね……それでは、改めて、だ…』

11 琴 『は、はいっ！？ だ、旦那様、急に、いかがされましたか？』

12 琴 『ええ…まあ、客足が少ないとはいえ、人手が足りてないのは本当ですが…』

13 琴 『その事が何か…はい、はい……はいっ！？ 旦那様、本気ですか！？』

14 琴 『旦那様は人の身なので、わざわざこちら側に身を置かずともよいのですよ』

15

16 琴 『いえ、その…」厚意自体は嬉しいです』

17 琴 『私たちとしても、ぜひその提案を受けたいです』

18 琴 『きっと支配人も二つ返事で了承されるでしょう』

19 琴 『旦那様、本当によろしいんですね？』

20 琴 『わかりました、旦那様のお気持ちは固いみたいですね』

21 琴 『そうしましたら、明日から色々と教えていきます』

22 琴 『なので、今日のところはお部屋に戻って、ゆっくりしててください』

23 鈴 『今の話って、もしかして旦那様はもっと長くここにいてくれるの？』

24 琴 『ええ、ずっとじゃないけど、しばらく居てくれるみたい』

25 琴 『それに私達と一緒に働いてもらえるそうよ』

26 鈴 『ほんと！？ やったやったあ！ 旦那様と、もっと遊べる！』

1
2 琴 『鈴、嬉しいのは分かるけど、ずっと遊んでるわけにはいかないのよ』
3 琴 『まずは、旦那様のお荷物をまたお部屋までお願い』
4 鈴 『はいっ』

5
6 ◇鈴の足音

7 琴 『もう鈴ったら…後で手引書をお持ちしますね』
8 琴 『あっ、恐らく読めないと思うので、私が訳しながら指導致します』
9 琴 『その時に他の従業員も紹介しますね』
10 琴 『え、意外でしたか…あっ!?!』
11 琴 『まさか、旦那様、私と鈴だけで旅館を切り盛りしてると思っていました…?!』
12 琴 『なっ! さすがに私と鈴だけで旅館の運営はできませんよ』
13 琴 『姉妹だけでやっていくには少々この宿は広すぎます…!』
14 琴 『ふふっ、なので、旦那様と一緒に働くことになって嬉しいです』
15 琴 『旦那様、これからよろしくお願い致しますね』
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

1

トラック7 姉妹の会話その2

■時間 0時頃

■場所 姉妹の部屋

2

3 鈴 『琴ねえ、旦那様の仕事はどうするの？ 接客、清掃、厨房』

4 琴 『接客は私一人で事足りてるから鈴の手伝いにあたってもらうつもり』

5 鈴 『まあ、ここに来るお客様って…琴ねえ目当ての方ばかりだもんね』

6 琴 『もうっ！ 私だって恥ずかしいんだからっ！』

7 鈴 『ふーん、まんざらでもなさそう…私も早く琴ねえみたいに大きくなりたいなあ…』

8 琴 『こほんっ、それは置いといて…』

9 鈴 『あー話題変えようとしてるーっ！ まあいいけど』

10 琴 『鈴の方で、手伝いはいらなさそうなら、こっちに來てもらうけど、どう？』

11 鈴 『うーん…手伝いは欲しいかな』

12 鈴 『今のままじゃ多分まわせないし…でも琴ねえのほうこそ、ほんとに大丈夫？』

13 琴 『さっき言ったでしょ？ 私は大丈夫だって』

14 鈴 『ちがうのっ、私が聞きたいのは旦那様と一緒にやなくて大丈夫ってこと』

15 琴 『すーずー？ お姉ちゃんに怒られたいのかなあ…？』

16 鈴 『待って、これは大事な話だから茶化さないで答えて』

17 琴 『わかったわ…その、旦那様が常に隣にいと、ね……私が集中できないの』

18 鈴 『ふーん？ へえー？ そうなんだ、それは大変だ！』

19 鈴 『なら、こっちを手伝ってもらって、もし手が空いたら琴ねえのほうにも、ね？』

20 琴 『うん、いいわよ、じゃあ明日も早いし、そろそろ寝よっか』

21 鈴 『はい、おやすみなさい、琴ねえ』

22 琴 『おやすみ、鈴』

23

24

25

26

27

28

1

トラック 8 鈴との膝枕と耳かき

■時間 14時頃

■場所 旅館周辺

2

◇足音SE

鈴 『…あつ、旦那様〜!! もしかして今散歩中ですか?』

鈴 『私も一緒に散歩していいですか?』

鈴 『そんなに心配しなくても大丈夫ですって!』

鈴 『今は休憩時間中ですし、もし何か言われても旦那がいますから!』

鈴 『それでそれで、旦那様!』

鈴 『次はどこに行きますか? 境内ですか? お庭ですか?』

鈴 『はい、質問ならなんでもいいですよ! どんとこいです!』

鈴 『ほうほう…つまり、日向ぼっこするための場所を探していたんですね!』

鈴 『そういうことなら任せてください! とっておきの場所があります』

鈴 『では、旦那様、急ぎますよおー!』

14

◇早足音SE

鈴 『旦那様!、こっちですよー! ん? どうしたんですか、旦那様?』

鈴 『せえせえって息…上がってますよー?』

鈴 『私ですか? 私はへーきですよ、へっちゃらです』

鈴 『ふっふっふ! 私、ちよっと足、早いでしょー』

鈴 『でも、人間の旦那様も私について来れたので大したものです』

鈴 『さあさ、見てください! ね、良い場所でしょー?』

鈴 『!』でなら最高の日向ぼっこができますよ』

23

鈴 『ついでに私の膝枕付きで…なんて、できたら最高ですよね!』

鈴 『あはは…ええ!?! いやいやいや! 冗談ですよ』

鈴 『うん…冗談、冗談で…旦那様そんなに見つめても…』

鈴 『すーはー! …ふう…本当に膝枕、しましようか?』

28

1 鈴 『えっ、でも本当にいいんですか？』
2
3 鈴 『日向ぼっこって一人でポカポカするものだって琴ねえが言ってる…』
4 鈴 『ちょっと待って！ 待ってってば、だっ、ただ旦那様！』
5 鈴 『そんな無言でジリジリと寄ってこないでくださいっ…！』
6 鈴 『わっ、わかりました！ 膝枕します、してあげますから…！』
7 鈴 『ふう……用意ができましたので、旦那様…どうぞ…』
8

9 ◇鈴の膝の上に頭を置く音SE

10 鈴 『どうですか？ 私の膝の感想は…そっか、ゆったり出来るなら良かったです』
11 鈴 『実は、この場所、気持ちを切り替える時によく、来るんです』
12 鈴 『お仕事や琴ねえと何かあった時とか…』
13 鈴 『いつもここで自分なりに見つめ直して、それからまた頑張ろうって、なるんです』
14 鈴 『だから、旦那様も何かあったらここ、使っていいですよ』
15 鈴 『琴ねえには内緒の私と旦那様だけの秘密の場所です♪』
16 鈴 『なので…んん…あああっ！ もう、旦那様ったら…！』
17 鈴 『耳ですよ、耳っ！ 耳を見てください！』
18 鈴 『って、見えるものじゃないですね…えっと、前に耳掃除したの、いつですか？』
19 鈴 『ちょーっと、これは耳掃除しないといけませんね』
20 鈴 『あのね、旦那様！ 私たちは従業員ですよー？』
21 鈴 『お客様の居る前で耳から、ぽろって落っこしたら、大変です！』
22 鈴 『もうしょうがないですね…今ここで、旦那様に耳かきをします…！』
23 鈴 『えっと…そう、ご奉仕です…！』
24 鈴 『いいえ… 聞きません…！』
25 鈴 『えーじゃないです！ 清潔なほうがいいに決まっています…！』
26 鈴 『とにかく、旦那様は大人しくしててください』
27 鈴 『今から、部屋に言って梵天を取ってきますので…！』
28 鈴 『もし逃げても私、すぐ追いつくんで、大人しく待っててくださいね…！』
29 鈴 『すぐ戻りますからっ』
30
31

◇早足音SE

鈴 『戻りました！…って、なんで正座してるんですか！』
鈴 『そんなに畏まられるとやりづらいですよ、もう…よいしょと』
鈴 『旦那様、改めて私の膝の上に頭を乗せてください』

◇鈴の膝の上に頭を置く音SE

鈴 『それじゃあ旦那様、耳かき始めていきますね』
鈴 『よいしょと…まずは耳の穴の近くから…』

◇耳かき音SE

鈴 『すう…ふう……んふう…はう……ふう…』(呼吸音)
鈴 『かきかき…かきかき……かき、かき……っと』
鈴 『すう…ふう……すう…ふう…』(呼吸音)
鈴 『どうですか？ 私、うまく出来てますか…？ 良かったです』
鈴 『ふう…すう……ふうう……はあ……』(呼吸音)
鈴 『実は琴ねえにも、よくこうやって、耳かきしてもらっているんですが…』

◇声真似または声色を変えて

鈴 『鈴はまだ幼いから一人でやっちゃダメよ、怪我でもしたら大変だって』

鈴 『ふうっ、過保護ですよー』

鈴 『でも、そんな琴ねえだから私は大好きなんだあって…』

鈴 『あっ！ 今の無しっ！ 無しでお願いします…！』

鈴 『あははは…おつかいいですねー、口が勝手に動いて…』

鈴 『いや、ほんと何言ってるんでしょう…あ、手が止まっていましたね、続けます』

◇耳かき音SE

鈴 『すう…ふう……はふう……すう……』(呼吸音)
鈴 『気持ち良さそうですね…くすくす』
鈴 『ほら耳から、こんなにいっぱい出ましたよ、やって良かったですよ。』

1 鈴 『うんうん、じゃあ次はもう少し奥のほう、いきますよー』

3 ◇耳かき音 SE

4 鈴 『ふう…すう……ふう……はぁ……すう…』（呼吸音）

5 鈴 『かきかき…かきかき………かきかき♪』

6 鈴 『旦那様、もう少し肩の力を抜いてリラックスしてくださいね…』

7 鈴 『ふう…すう……ふふっ……んんっ…すうう……』（呼吸音）

8 鈴 『奥のほう触るの、ここが気持ちいいんですね…だんだん分かってきました』

9 鈴 『ちよっと耳かきをお預けして…そうそう、旦那様！ ちよっと聞いてくださいよ！』

10 鈴 『琴ねえってば、変なところがあるんです！』

11 鈴 『旦那様もなんとなく、気づいてるかもなんすけど…』

12 鈴 『琴ねえって少し抜けてるところがあるというかドジ…てん…ねん？』

13 鈴 『あっ、そう、天然です、天然っぽいところあるですよ』

14 鈴 『それですね…つい先日のことなんすけど…』

15 鈴 『私が後で食べようとしてた、お菓子を勝手に食べてたんですよ！』

16 鈴 『その時に琴ねえは、なんて言ったと思います？』

18 ◇声真似または声色を変えて

19 鈴 『あっ、ごめん！ つい、小腹すいちゃって、えへへ？』

21 鈴 『ですよ！ 私の姉ながら、その…可愛くて何も言えなくなりまして…』

22 鈴 『たまに見せる、おちゃらけた姿…あれは最高の癒しです』

23 鈴 『普段しっかりしている琴ねえだからこそ、意外なんですよね…』

24 鈴 『おっとと…旦那様？ 耳のほうは、どうですか？』

25 鈴 『私、ちゃんとやれてます…か？ そっか、良かったです』

26 鈴 『いえ、初めてってわけではないんです、初めては琴ねえだったので』

27 鈴 『でもご奉仕するからには相手のかたには、喜んでほしいんです』

28 鈴 『だからすごく集中してやってるんです！』

29 鈴 『もう！ 笑い事じゃありませんって！』

30 鈴 『あっ、でしたら旦那様も後で交代してみます…？ 私に耳かき？』

31 鈴 『いえいえ、そう遠慮なさらずにー？ 人の苦勞を笑った罪、重いですよ…』

1 鈴 『へへっ、わかってくださればいいんです』
2
3 鈴 『さあ休憩もしたところで、ラストスパートいきましょー!』
4 鈴 『あとちょっとですからねーっ』
5

6 ◇耳かき音SE

7 鈴 『すう……んっ……はぁぁ……ふう……』(呼吸音)
8 鈴 『かきかき……かきかき……んふう……かきかき…』
9 鈴 『んう……「」を「う」して……すう……「リ」リ……』
10 鈴 『これで……ひゅう……すう……よしっ取れたぁー!』
11 鈴 『ふうー! これで終わりっ、旦那様お疲れ様でしたっ!』
12

13 鈴 『時間、ですか? あー、多分もう休憩時間終わってますね…』
14 鈴 『大丈夫です! 私がしたくてしてること、ですから旦那様は何も気にしないで』
15 鈴 『それに、琴ねえならこの状況許してくれる…はずです』
16 鈴 『だって私は今、旦那様のために「」奉仕しているのですから!』
17 鈴 『ああー反対側もですね! 分かりました、この際ですからやっちゃいましょう!』
18 鈴 『ありがとうございます、旦那様』
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

1

トラック 9 鈴との膝枕と耳かき(反対側)

■時間 14時頃

■場所 旅館周辺

2

鈴 『では旦那様、反対側の耳もやってしましましょう!』

3

鈴 『ふふーん♪ 旦那様、いい表情をしていますねえ』

4

鈴 『いえいえ、からかってなんか、いませんってば!』

5

鈴 『私は嬉しいんです、ちゃんとして私で気持ち良くなっていることが…ですよ』

6

鈴 『え、どうしたんですか? 私、何も変なこと言っていないのに…』

7

鈴 『あっ…つつっ!…! 旦那様のスケベ、変態!』

8

鈴 『もう知りません……なんてね』

9

鈴 『さっ、冗談はこの辺にして、続き、やりましょう! こちらへ!』

10

◇顔の向きを变える音

11

鈴 『旦那様、さっきと同じ要領で体、リラックスしてくださいな!』

12

鈴 『もう一度、一緒に、深呼吸しちゃいましょう!』

13

鈴 『すーはーすーはー……ふう……慣れてきましたね』

14

鈴 『そろそろ、こっちも耳かき、始めていきます』

15

鈴 『まずは耳の外側から…!』

16

◇耳かき音 SE

17

鈴 『すう……ふう……はふう……すう……!』(呼吸音)

18

鈴 『こっちも今みたいな感じで……良さそうですね……くすくす』

19

鈴 『こっちの耳は、わりと綺麗そうですね……あっ、ちよっと、じっとしてて』

20

鈴 『ふう……すう……ここを……かきかき……手こたえありませんね……ふう……!』

21

鈴 『ほーら耳から、こんなにいっぱい出ましたよ、やって良かったでしょ!』

22

鈴 『うんうん、じゃあ次はもう少し奥のほう、いきますよ!』

23

鈴 『何かあったら、すぐに言ってくださいね!』

24

鈴 『すう……はあ……んしょ……ふう……!』

25

鈴 『今の旦那様の顔……ふやけた顔してますね、そんな耳気持ちいいんですか?』

26

1 鈴 『ふふっ♪ なんだか旦那様を見ていると私にもっこりです』
2 鈴 『奥の方は』
3
4 鈴 『ところで、あの…旦那様？ 前から聞いてみたかったことがあります』
5 鈴 『琴ねえのこと、どう思ってるんですか？』
6 鈴 『どうって、そのままの意味です、好きとか嫌いとかあるじゃないですか？』
7 鈴 『え、まあ、嫌いだったら一緒にはいないですね…あははは…』
8 鈴 『じゃあ、やっぱり琴ねえのこと好きなんですよね！？』
9 鈴 『隠さなくたっていいじゃないですか』
10 鈴 『だって、最近琴ねえが旦那様の話をする時ニコニコなんですよ』
11 鈴 『これは2人とも、デキてるんじゃないかと思っけていますね…』
12 鈴 『なんとなく、旦那様と琴ねえの息もびったりだなあと思っけています』
13 鈴 『前々から知り合っただったという…わけでもないですよね…？』
14 鈴 『うん、うん…鳥居で初めて…、ああっ！』
15 鈴 『そうそう、そのことも聞いてみたかったんですよ』
16 鈴 『何って旦那様のことですよ、ここに来た理由です』
17
18 鈴 『と言いますか、どうやってあの鳥居をくぐったんですか？』
19 鈴 『そのあたりのこと、つい聞くのを忘れてました』
20 鈴 『琴ねえと一緒に普通に入っただって…うーん…変ですね…』
21 鈴 『いえ、あのですね？ あの鳥居っていわゆる門って呼ばれるものなんです』
22 鈴 『鳥居が神様の家の玄関やその扉って話、聞いたことないですか？』
23 鈴 『で、ですね、普通なら人払いの結果が張ってあるんです』
24 鈴 『なので、そう簡単に入っけてこれない…はず、なんです』
25 鈴 『だから旦那様は、どうやってここに入っけてきたのかなあって』
26
27 鈴 『鳥居をくぐる時に音がした…ですか？ いえ、私はそんな音を聴いたことは…』
28 鈴 『はい、はい…はい……んー？ やっぱりわかんないですね…』
29 鈴 『この質問はなし、なしです、私も忘れますから、忘れてください！』
30 鈴 『つつい話し込んでいますね…耳かき再開です！』
31 鈴 『スパークかけていきますね』

◇耳かき音SE

3 鈴 『すう…ふう…あっこの感じは……んん…もうちよつとだから…』
4 鈴 『ふう…すう…はああ…この子、強情ですね…』
5 鈴 『じれったいけど…旦那様の為にも……あ、これこれ！』
6 鈴 『よいしょ……ふう…すう……ふう〜』
7
8 鈴 『はい、こっちの耳垢もとれたので終わりです！ お疲れ様でした！』
9 鈴 『話いっぱい、しちゃいましたね』
10 鈴 『ありがと〜』ぞいます旦那様、私のわがままに付き合ってもらって…』
11 鈴 『琴ねえ、待ちわびてるでしょうから…そろそろ、行きましようか！』
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

1

トラック10 琴の膝枕添い寝

■時間 23時頃

■場所 宿泊部屋

2

琴 『すみません、少々よろしいでしょうか？』

3

◇襖を開ける音SE

琴 『失礼します旦那様、夜分遅くにすみません』

琴 『館内の巡回をしていたら灯が付いているのをお見かけしたものですから…』

琴 『そのお手元にあるのは、本…ですか？』

琴 『こんな夜更けに読まれていては、お身体に障ります』

琴 『もしかして寝付けないのですか？』

琴 『ふふっ、いえ、少し意外だったものですから』

琴 『わかりました、ここは一つ、私にお任せしてください』

琴 『遠慮なんてなさらずともよいのです、私は旅館の女将なのですから』

琴 『まずはお茶をお入れしますね、旦那様はそのままおくつろぎください』

14

◇お茶を入れる音SE

琴 『用意ができましたよ、さあ、あたたかいものをどうぞ』

18

◇湯呑を置く音SE

琴 『いかかがでしょう、あたたかいものどうですか？』

琴 『夜中に飲む暖かいお茶は、よりいっそう温まるような気がしますませんか？』

琴 『少し体がポカポカしてきたと思いますので、よいしょと…』

琴 『旦那様、お次は、こちらへ来てください』

琴 『ぶっしたんですか…？ 私は、ただ膝枕をしようとしただけです』

琴 『そう恥ずかしがらなくても、よいではありませんか』

琴 『私にとっては人の子は、みんな子どものようなもの…』

琴 『ですからどうぞ、私のお膝へ…はい、ここに頭を置いてください』

28

◇頭を膝の上に置く音

『そこまで照れなくてもいいですのに…』
『旦那様、深呼吸して身体をリラックスさせてください』
『私が合図しますから、合わせて深呼吸をお願いします』
『吸って…吐いて…吸って…吐いて…いい感じです、続けてもう一回です』
『吸って…吐いて…吸って…吐いて…』
『まだ少し緊張しているようですが、このぐらいでよいでしょう』
『横になっているうちに慣れてくると思いますが』
『ふう〜あつ、仕事なのに一息ついてしまいました…』
『こうしていると気が抜けてしまってます』
『ええ、時間がある時はいつも鈴にしているもので、つい』
『あつ、そういえば先程鈴が、こんなことを言っていましたよ』

◇声真似または声色を変えて

『旦那様を気持ちよくしてきました！』

『などと、はしゃいでいました…これはどういことでしょうか…？』
『まさか、旦那様に限ってそんなことはないと思いますが…』
『もし変な気を起こそうとしたらその時は…覚悟、してくださいね？』
『…って、これでは緊張がほぐれませんか、失礼しました』
『そうですね…話題を変えましょう…旦那様はどうしてここに来たのですか？』
『うんうん…なるほど、あの鳥居に見覚えがある…ですか？』
『言われてみると…旦那様のお顔をどこかで…何か引っかけます…』
『もっと、近くで顔を見せていただいてもいいですか…？』
『今、眼鏡をしています、もっとその瞳を、はっきり見たいのです』
『恥ずかしがらずに、目を逸らさないでくださいませ…』
『うーん、やっぱり匂いもかかせてください』
『くんくん…この匂い…やっぱりどこかで…あつ……思ひ……出しました！』
『たしか、あれは…私が偶然、鳥居の外で妖術を練習していた時の事です』

◇回想シーン 開始

『やあーっ！ えっ！？ きゃっ！！？？』

◇軽い爆発音みたいな音SE

『妖術をうまく使いこなせなかった私は、その反動により倒れてしまいました』

『回復に専念するため体を休めていたその時、私の目の前に小さな男の子が現れます』

男の子 『ねえ、耳と尻尾の生えたお姉ちゃん、大丈夫？』

琴 『え？ ええ…大丈夫よ』

男の子 『良かった！ ねえ…その耳と尻尾、触っていい？』

琴 『待って、今はだめ、興味あるのわかるけど、耳と尻尾触らないで』

男の子 『じゃあ…手もダメなの？』

琴 『手？ うーん…分かったわ、手ならいいわよ』

男の子 『お姉ちゃんありがとう！』

琴 『あのねボク？ 私がここに居たことを誰にも言っちゃだめよ？』

男の子 『どうして？ あ…もしかして耳と尻尾が生えているから…？』

琴 『うん、そうなのこれは秘密なの』

琴 『だから秘密にしていってくれたら、今度会った時に耳や尻尾を触らせてあげるね』

男の子 『ほんと？ また会えるの？』

琴 『ええ、私の事を秘密にしていってくれたら、絶対触らせてあげるね』

男の子 『うん、お姉ちゃんと約束する…！ あっ、もう行かなきゃバイバイ…』

◇男の子が走る音SE

◇回想シーン 終了

琴 『男の子の背中を見送りながら、私はなんとか、鳥居の奥へと入りました』

琴 『旦那様は幼かったですからその出来事を忘れていたのかもしれませんが』

琴 『しかしながら、心の奥底…潜在意識が覚えていたのでしょうか』

琴 『だから、初めて会った時に私の耳や尻尾のことを触りたがっていたのですね』

琴 『そして鳥居をくぐれたのも、私に触れたという縁があったからでしょう』

琴 『あの時は、妖力を使い切った後だったから、耳と尻尾は触られなくて…』

1 琴 『それにしても、あの時の男の子が旦那様だったなんて…』
2 琴 『旦那様は、どうしてあの時、あそこにしたのか覚えていますか？』
3 琴 『いえ、思い出せなかったら大丈夫で…』両親と山登りですか？
4 琴 『本当に旦那様とは不思議な縁の導きですね…』
5 琴 『ふふっ少々お待ちください、私の尻尾を…』
6

7 ◇尻尾に撫でられるモフモフSE

8 琴 『いかがですか？ このように撫でられると触り心地も良いでしょう？』
9 琴 『あっ、あまり力強く触らないでくださいね、私の体の一部なので優しくです』
10 琴 『鈴にもここまではしないのですから…』
11 琴 『あの…私は、旦那様には感謝しているのです』
12 琴 『不思議な縁で一緒に働くことになって…最近鈴がすごく楽しそうなんです』
13 琴 『これまで、ずっとお仕事ばかりでろくに遊ぶこともしてこなかったので…』
14

15 ◇涙ぐみながら

16 琴 『よく一緒に館内をまわっているとお聞きして、姉としては大変嬉しくて…』
17 琴 『いっ、いけませんね、女将としてこんな姿を見せては…』
18 琴 『いえ、気にしないでください…いいんです、これは嬉し涙なんですから』
19

20 琴 『すみません、取り乱してしましまして…』

21 琴 『旦那様といると私も安心しきっちゃうみたいで…お気遣いありがとうございます』
22 琴 『ふふっっ、欠伸されているみたいで、眠たそうです』

23 琴 『でしたら、膝枕を終える前に、最後に1つおまじないをしますね』

24 琴 『あの…あまり見つめないでください…そんな期待した目をされても困ります』

25 琴 『ええっと、このあたりに昔から伝わるものでして』

26 琴 『特に効果とかあるわけではないので、子供騙しのようなものだと思ってください』
27

28 琴 『あんみん、こころよ、やすらかに…』

29 琴 『本当に子供騙しといたしますか、きつと思いを込めることが呪文の肝なのです』

30 琴 『旦那様、私はそろそろ失礼しますね、心地良い夢が見れますように…』
31

1

トフィッ１２ 姉妹の会話その３

■時間 〇時時頃

■場所 姉妹の部屋

2

鈴 『ねえ、琴ねえ』

3

琴 『ん？ どうしたの？』

4

鈴 『琴ねえはさ、旦那様のことどう思ってるの？』

5

琴 『ぶっ！？ なっ、なななにを言い出すかと思えば…』

6

琴 『でもどうって…どう、なんだろう…』

7

鈴 『しばらくはここにいてくれるけど、何年もいるわけじゃないんだよ？』

8

鈴 『それに旦那様は、琴姉のタイプでしょ』

9

鈴 『ちが、わないけど…そう改めて言われるとさー』

10

琴 『私も旦那様のこといいなあって思ってるし、お似合いだと思うよ』

11

鈴 『そのさ…琴姉、勇気出してみたら？ 旦那様ならきつと応えてくれるよ』

12

鈴 『私には難しいよ…でも、うん、私なりに少し考えてみる』

13

鈴 『うん、応援してるね！ はい、それじゃあ、このお話はおしまい！』

14

鈴 『なんか恥ずかしくなってきたから、今日はもう寝るね、おやすみ』

15

鈴 『ふふっ♪ おやすみなさい！ 鈴、ありがとっね』

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

1

トラック11 和菓子作り

■時間 11時頃

■場所 調理場

2

鈴 『あつ！ おはよー』ございます、旦那様！』

4 琴 『あら旦那様、いかがされましたか？ わざわざ食堂まで足を運ぶなんて』

5 鈴 『もしかしてつまみ食いですか！ ダメですよそんなこと』

6 琴 『旦那さまったら…もう少しでお昼なんですから、我慢してくださいね』

7

8 鈴 『私たちですか？ 今は和菓子を作っているところですよ』

9 琴 『お客様があまり来ない、とは言ってもやはり甘味は欠かせない！』

10 琴 『ということ、新メニューも兼ねて、という感じです』

11 鈴 『だけど琴ねえって、実は料理そんなに上手くないから普段は私が作ってるんです』

12

13 琴 『っっ！… ちょっと、鈴！ そういうことはあまり言わないでっ！』

14 琴 『…あ、すみません、いえ、ほんとのことではあるんですけども…』

15 鈴 『しゅんとなる、琴姉かわいいー！』

16 琴 『鈴！ 旦那様の前で、これ以上はやめてっばー！』

17 鈴 『琴ねえを弄るのはこのくらいにして、和菓子の大福を考えていまして』

18 鈴 『それでなんで大福かって言うのと、なんとなく見た目からして簡単そうだから、です！』

19 琴 『聞いたところによると万人受けしやすい和菓子だそうです…』

20 琴 『実際、作るのもさほど難しいわけでもないらしいです』

21 鈴 『でも、大福ってもちりした皮？ で、あんこを包んだものだったような…』

22 鈴 『あ、合ってるんですね！ 旦那様、ありがとうございます』

23 鈴 『んー、もしかして旦那様は、和菓子の知識あるんですか…？』

24 鈴 『旦那様、旦那様！ 私たちと一緒に、和菓子作ってくれませんか？』

25 鈴 『仕事も覚えられますし、良いことしかありません！ 作りましょう！』

26 琴 『私も鈴と同じ意見です、旦那様？ 私からも是非お願いします』

27 鈴 『っ！ ありがとうございます！ では早速こちらへどうぞー！』

28

◇効果音SE

1
2
3 琴 『えーっと、必要な材料は白玉粉、グラニュー糖、あんこ、片栗粉、水、ですか…』
4 琴 『それに、ぐ、ぐらにゅーとう？ ええっと鈴、カタカナのこれってなに？』
5 琴 『初めて聞いたけど、これは新しい食材なの？』
6 鈴 『あー琴ねえ、普段料理しないもんね』
7 琴 『うっ…私にも得手不得手はあるの、鈴もあるでしょ？』
8 琴 『ところで、鈴その、ぐ、ぐらにゅー…』
9 鈴 『ああ、グラニュー糖っていうのは、甘いお菓子に使うものの』
10 鈴 『例えば、キャラメルとかケーキみたいなのに使われてるものだよ』
11 琴 『なるほど…なんとなく分かったわ』
12 鈴 『ふう…旦那様、大福のような和菓子になら砂糖でも大丈夫ですか？』
13 鈴 『だってさ、琴ねえ、グラニュー糖は砂糖でも大丈夫みたいだよ』
14
15 琴 『ほんと！ ありがとう！ 鈴、旦那様』
16 琴 『ほかにないものは…ないよね』
17 鈴 『旦那様にも確認してもらったメモだし、材料もこれで全部だよ』
18 琴 『なら安心だね、では早速、作っていきましょう！』
19 琴 『とは言ったものの…なにかからしていったら、いいんでしょう…』
20 琴 『ごめん鈴、ここから任せていい？』
21 鈴 『うん、元々そのつもりだったし！ まずは下準備として、あんこを丸めるところから』
22 琴 『そんなことからいいの？ なんかにこう、もっと複雑な手順とかあるものか？』
23 鈴 『あのね、琴ねえ？ こっちは私に任せてくれるんだよね？』
24 琴 『あっ、はい、すみません…』
25 鈴 『今は下準備なんだから簡単でいいの』
26 鈴 『最初っから難しいことだったら、お客様を待たせちゃうからね』
27 鈴 『それに、こっという手がすぐく汚れる作業は先に済ませておくと…』
28 鈴 『あとで、洗い物とか他の作業が楽になるから』
29 琴 『それもそっか……ねえ鈴、こっという手の上でこころろする感じでいいの？』
30 鈴 『そそっ、そうして丸くするだけで大丈夫』
31 琴 『こっ、かなっ？ こっ…』

1 鈴 『ばっちり！ いい感じ！』
2 琴 『うう…分かってはいたけど、あんこが手にびっしり』
3 鈴 『仕方ないよ、本当使い捨ての手袋を使ってもいいんだけど』
4 鈴 『今日はあくまでメニュー開発だもん、気にしない、気にしない』
5 鈴 『どうしたんですか、旦那様？ 不思議そうに私たちを見つめて…』
6 琴 『ああ、私たちの口調ですか？ 姉妹でお話する時はこんな感じなんです』
7 鈴 『そうそう、姉妹で畏まる必要もないですし、旦那様もいづれ慣れますから』
8 鈴 『さてお次はー、まな板の上に片栗粉をふりかけるだけ！』
9 鈴 『うすーく、まんべんなく、ね』
10 琴 『鈴、このあみあみのとか使えない？』
11 琴 『横からトントントンってしたら…えっと、なんでそんな怖い目をしてるの』
12 鈴 『…汚さない？』
13 琴 『うん…汚さないわ』
14 鈴 『ならそれをお願い、私は別の作業に入るから、旦那様、あっち行きましょう』
15 琴 『よし、とんとんとん♪ っと、うん、いい感じいいあつ、あああつ…？』
16 鈴 『旦那様、琴ねえが、あれしてる間に私はもう生地作りに入って大丈夫ですか？』
17 鈴 『ありがとうございます♪』
18 鈴 『琴ねえー？ 終わったらこっち来てね！ 琴ねえにも覚えてもらわないと、だから』
19 琴 『わかったー もう終わるから、ちょっと待っててー』
20 琴 『ありがとう、こっちは大丈夫ー』
21
22 鈴 『さてさて…生地はさっき使わなかった白玉粉、砂糖、水これ全部ボールにとぼと』
23 鈴 『これでもいい感じになるまで混ぜちゃいます』
24 琴 『ねえ、料理できる人って、そんな風に適量とか目分量なんて言っけど…』
25 琴 『いい感じって言われても、わからなくない？』
26 鈴 『そう言われるとまあ、それはそう、なんだけど…でもいい感じはいい感じだし』
27 鈴 『なんとなくわかってとしか言えない…経験を積むのみかな…？』
28 鈴 『はい、もういい感じにできたら次はこれに蓋をして、かまどに…』
29 鈴 『…あつ、琴ねえどうしよう！ かまど熱しておくの忘れてた！』
30 鈴 『いっ、今からでも間に合うかな…』
31 鈴 『鈴、急いでやらないといけないなら、アレ、使ってもいいよ』

1 鈴 『えっ、いやでも…』

2
3 ◇耳元でコンコン話すように

4 琴 『旦那様、きつとめちやくちや喜ぶと思つわ』

5
6 鈴 『うん、やる！ あの、旦那様…？』

7 鈴 『今からとっておきのものを見せてあげるから、ぜーったい！ 目を離さないでよ！』
8 鈴 『やあーっ…！』

9 ◇妖術効果音SE

10 鈴 『っ！ 普段あまり使わないから加減がつ、難しい！』

11 鈴 『どうですか、旦那様、旦那様？』

12 鈴 『あわわ、待って！ 今はやめっ、やめて危ないです！ 火傷しますよっ…？』

13 琴 『旦那様、また、見えますから、今は本当にやめてくださいね』

14 琴 『…気になるのは分かりますので、そんな萎縮しないでください』

15 琴 『鈴、これをもう一回混ぜて、温めるを繰り返したらいいんだよね？』

16
17 琴 『…♪(鼻歌)』

18 琴 『はい鈴、これをお願い』

19 鈴 『はいい♪ ところで旦那様、さっきの妖術なんですけど…』

20 鈴 『琴姉が温めなかった理由、気になりますか？ きつと気になりますよね』

21 鈴 『これは単純に得手不得手の問題です、私が温めて、琴姉が冷やす』

22 鈴 『つまりはそういうことです！ 姉妹ならではの、格好いいですよね！』

23 鈴 『じゃあもう一度！ やあっ…！』

24 ◇妖術効果音SE

25 鈴 『ふっ…後はもう一回かき混ぜて、半透明になってきたら、いよいよ最終段階です！』

26 鈴 『この半透明になった生地に、片栗粉を敷いたまな板の上にどーんと置いて…っ』

27 琴 『…っで鈴？ 今更なんだけど、いつもどこでこんなの覚えてくるの？』

28 鈴 『どっでって、人の居る街に買い物に行った、ついでに料理本も買ってるから、それで』

29 鈴 『ずっと、あそこの棚に置いてるよ…』

30 琴 『えっ、私、お姉ちゃんなのにその話初耳よ』

31 鈴 『うん、話すなら今でしょと思って、今までも聞かれてないし、言っていないからね』

1 琴 『ちょっと、それ、お姉ちゃんに対してひどくない!?!』
2 鈴 『はいはい、そんな話はいいいから、続き続き』
3 鈴 『この生地は片栗粉を上からもかける! ぱらぱら〜(小声)』
4 鈴 『そしてこれを…最初に丸めたあんこの幅より少し広い程度に切り分ける…っと』
5 鈴 『ちゃんと生地は厚めにね』
6 琴 『待って鈴、やっぱり少しくらい、やらないと姉としての立場が…ね?』
7 鈴 『わかった、切らないように気をつけてね』
8 琴 『うん、わかってるって、ありがとう』
9
10 琴 『おお、意外とすばっと切れるわね、ちょっと楽しい♪ ふふっ』
11 鈴 『えっへん! 旦那様、これが私の姉です! 可愛いでしょう…要りますか?』
12 鈴 『なーんて冗談ですよ、……でも、もし本当に』
13 鈴 『琴ねえのこと気になってるなら、少しくらい自分からアプローチ、してくださいね』
14 琴 『これでよし…なに2人ともニヤニヤしてるの…?』
15 鈴 『ううん、なんでもなーい!』
16 鈴 『あっ、すく上手くできてる! これとかめちゃくちゃ綺麗だよ!』
17 琴 『そっ、そうかなあ(照れ)』
18 鈴 『ふふっ♪ じゃあ次がいよいよ最後!』
19 鈴 『琴姉が切り分けた生地の上にあんこを乗せて…』
20 鈴 『片栗粉を手にかけてから、その生地を伸ばしてあんこを包む』
21
22 鈴 『そして後は、まるく形を整えたら、完成!』
23 琴 『どっ、どうですか旦那様! 私のは綺麗にできているでしょうか』
24 琴 『ほんとうですか! ありがとうございます!』
25 鈴 『ふふん♪ 当たり前でしょ? なんだって私が主体でやったんだから』
26 鈴 『いい加減な出来にはさせないよ』
27 鈴 『さっすが鈴、頼りになるーっ!』
28 鈴 『ちなみに、最後のあんこを包む時、苺をいれると苺大福になるんだって』
29 鈴 『それほんと!?! 今度また一緒に作ろ!』
30 鈴 『もちろん! あっ、旦那様も一緒ですからね!』
31 鈴 『では、いただきます!』

1 琴 『あーん、はむっ…んむ…んんゝおいひゝゝ!』
2 鈴 『うん、ちゃんと美味しい、思ったより上手にできたかも』
3 鈴 『これなら新メニューとしてもいけそう…!』
4 琴 『ただ、妖術に頼りつきりって、言うわけにもいかないよね』
5 鈴 『まあ…まあそこに関しては後で支配人と相談してくるとして』
6 鈴 『とりあえず、今は大福を味わいましょう! その後は食べてからです!』
7 琴 『旦那様もお味、いかがでしょうか? お口に合いますか…?』
8 鈴 『良かったです! 旦那様、一緒に和菓子作っていただき、ありがとうございます!』
9 琴 『さあ、残りもみんなで食べちゃいましょう』
10 鈴 『はい!』
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

1

トラック13 琴のマッサージ

■時間 21時半頃

■場所 マッサージ室

2

◇足音SE

4 琴 『お疲れ様です旦那様、お風呂の前にこちらへ』

5 琴 『先ほど申し込みされた、マッサージを始めたいと思います』

6 琴 『お客様としての時はしませんでしたから、初めて…ですね』

7 琴 『本日は精一杯、努めますので、よろしく願います』

8 琴 『こちらのベッドにうつ伏せになって寝てください』

9 琴 『ん？ あの…旦那様、服を着たままでなく、脱いでください』

10 琴 『服を着たままでは、マッサージの効果が高めることが出来ません』

11 琴 『何を焦って…え、ちょっと、旦那様何を想像しているのですか！？』

12 琴 『全部は脱がなくていいんです！ 私は後ろを向いていますから！』

13 琴 『下はタオルで巻くなりして隠して台に乗ってください』

14

◇服を脱ぐ音SE

15 琴 『はい、振り向いても大丈夫…ですね、ありがとございます』

16

◇ベッド(施術台)の上に乗るSE

17 琴 『はい、これで準備が整いましたので施術、始めますね』

18 琴 『軽いマッサージですので、専門的なものではないことをご了承くださいませ』

19 琴 『改めまして、宜しく願ひ致します』

20 琴 『まずは、こちらのオイルをすーっと満遍なく背中に塗っていきますね』

21 琴 『ちょっと冷たいかもしれませんが、そのままじっとしててくださいー』

◇オイルを塗る音SE

22 琴 『こんな風に背中へ…少しずつ揉みほぐしていきましょう』

23 琴 『もみもみ…もみ、もみ…もみもみ…っと』

24 琴 『どうしたんですか、旦那様？』

25 琴 『先ほどから…お声、漏れていますよ？』

26

1 琴 『気持ちいいんですね、大丈夫です、その反応で分かりますから』
2 琴 『まだ、お風呂に入る前だというのに…旦那さまったら』
3 琴 『私はただ、背中を揉んでいるだけですよ…』
4 琴 『よいしょ…もみもみ…もみもみつ…』
5 琴 『うんっ…すう…もみもみ…もみもみ…ふう…』
6 琴 『旦那様、中々こつてますね？ こんなに固いなんて…』
7 琴 『今まで気づかず申し訳ございません』
8 琴 『んしょ…うんっ…ふう…』
9 琴 『ここまで固いと、もっと私も本気にならないといけませんね』
10 琴 『そうしないと旦那様を気持ちよくできませんから…！』
11 琴 『肘も使っていきますので、痛かったら加減しますので遠慮しないでくださいね』
12
13 琴 『んんっ…はあっ…ふう…んんっ…』
14 琴 『んふう…ふう…んんんっ…すう…』
15 琴 『どうでしょうか、うまく出来ていますか…？』
16 琴 『くすくす、とても気持ち良さそうな感じですね』
17 琴 『だって、先ほどよりもお声が凄いいことになっていますから』
18 琴 『もちろん、私としては無反応よりも、このほうが嬉しいです』
19 琴 『最後はここを思いっきり、っとー！』
20 ◇力むちゅに
21 琴 『んんっ…ふう…ううっ…ふう…すうー…はあ…んしょっ！』
22 琴 『はい、こんなところですね…旦那様、もう起きていいですよー』
23 琴 『マッサージ前と比べて、体の感じどうでしょうか…？』
24 琴 『そうなのですね、ふふっ♪ ほぐれたみたいで良かったです』
25 琴 『これでマッサージを終わります』
26 琴 『ゆっくり湯船につかって、リラックスしててくださいね』
27 琴 『またのご利用をお待ちしておりますね、旦那様』
28
29
30
31

1

トラック14 鈴とお風呂場で

■時間 22時頃

■場所 露天風呂

2

鈴 『〜♪(鼻歌)』

3

鈴 『今日も疲れたあ〜やっぱり働いた後はお風呂に限るよね!』

4

鈴 『…よし、今がチャンスね!』

5

6

◇ペタペタ走る音SE

7

◇温泉へ飛び込む音SE(どぼ〜ん)

8

鈴 『つはあ〜! 琴ねえに見つかったら怒られるからやらないけど、やりたくなるよねえ』

9

鈴 『ふう…うんっ、気持ちいい〜』

10

鈴 『これぞこの旅館で働いてるものの特権だよねえ〜』(伸びながら)

11

鈴 『泳いでも…大丈夫、だよな? よし!』

12

13

◇ぽちゃぽちゃ音SE

14

鈴 『あははは、っば最高だね〜』

15

鈴 『はあ…それにしても、人間、か…しかも男の人』

16

鈴 『初めての人…せっかくだし、もう少し仲良くなりたいなあ』

17

18

◇遠くから水音SE

19

鈴 『っ!?! 誰かいるの!』

20

鈴 『で、ででっ、出てきなさい! 今ならまだっ、許してあげますよ!』

21

鈴 『うそっ!?! だっ、旦那様!?! ええっと、いつからそこに…っ!』

22

鈴 『最初から…? これは失礼しました! まさか入っているとは思わず…!』

23

鈴 『また出直してきます! ああ、わわっ、づえ』

24

25

◇慌てて転倒する音SE

26

鈴 『いったたあ…なんでもありません、ただ転んだだけです』

27

鈴 『っは! 大丈夫、大丈夫ですからっ! 今こっち来ないください!』

28

1 鈴 『いえほんとに、ほんとに今は…あっ』
2 ◇赤面で震え、焦って余裕のない感じで
3 鈴 『つつっ！……！ 見ました？ 今、見ましたよね？』
4 鈴 『なんで来たんですかあ！ 私言いましたよね！ 今は来ないで、大丈夫ですって』
5 鈴 『何そっぽ、向いてるんですか！ まずは謝ってくださいっ！』
6 鈴 『たしかに転んだ私が悪いですし、不可抗力なのはわかっています』
7 鈴 『ですがっ！ 乙女の大事な部分を見たことには変わりありません！』
8 鈴 『それとも私のは謝罪するに値しないほど、お粗末でしたか』
9 鈴 『ええ、そうですよね』
10 鈴 『そりゃあ琴ねえみたいな女性に比べたら、まだまだ子どもかもしれません…』
11 鈴 『私だって、もっと年を取れば、きつと色々大きくなりますから！』
12 鈴 『旦那様？ 急にしやがんで…どうしたんですか？』
13 鈴 『もしかしてお腹が痛い、のですか？』
14 鈴 『そうなら少し見せてください、一応これでも女中、多少なら対応できますから！』
15 鈴 『なんで強く押さえつけてるんですか！ いいから、見せてくださいっ！』
16 鈴 『強情ですねえ……あつ、あそこに琴ねえが！』
17 鈴 『旦那様、油断しましたね？ 私はこの瞬間を待っていたんですよっ！ えいっ！』
18

19 ◇タオルをバサツと剥ぎ取る音SE

20 鈴 『どおれどれ…ええあつ、あつ、ごめんなさい！ そそそ、そんなつもりはっ！』
21 鈴 『あのまさか、大きくされているとは思わなくてですね』
22 鈴 『それに…男性のそれなんて知識でしか知らず…』
23 鈴 『ええっと！ どうしよう！？ 琴ねえにばれたらきつと追い出されちゃう』
24 鈴 『あ、あの！ それって…小さくならないんですか？』
25 鈴 『すっごく痛そうで、苦しそうです』
26 鈴 『そうなった原因さえわかれば、きつとどうにかできるはず』
27 鈴 『何か心当たりはありませんか？ どんな些細な事で構いません！』
28 鈴 『私でよければ、旦那様のお力になりますから…』
29 鈴 『どうしたんですか？ そんなに言いくいものなんですか？』
30 鈴 『いえ、旦那様が言いたくないのであれば、無理にとは言いませんが…』
31 鈴 『…へ？ 私？ いやいや、」冗談を…旦那様のぼせてるんじゃないですか？』

1 鈴 『だって私ですよ？ 琴ねえみたいな女性に興奮するならわかりますけど…』
2 鈴 『私のような小さい身体に興奮しているわけ…』
3 鈴 『ええっ…本当ですか？』
4 鈴 『うーん、乙女心としては複雑ですね…旦那様がそんな人だったなんて…』
5 鈴 『でも、どうにかしないといけないですもんね…わかりました！』
6 鈴 『旦那様のそれを私がなんとかしてみましよう！』

◇小声で

9 鈴 『早くどうにかしないと、もし琴ねえにこんな場面見られたら…絶対やばいっ』

11 鈴 『ううん、なんでもないですよ！ 旦那様、大丈夫です！』

12 鈴 『やり方はわかりませんが、旦那様は治し方を知っているんですよ？』

13 鈴 『ではその方法を教えてもらって実践あるのみ！ これで万事解決です！』

14 鈴 『さあ旦那様、治し方を教えてください』

15 鈴 『はあっ！…！？？？ な、かなっ、正気ですか！？』

16 鈴 『それを触るのは、怖い…けど』

17 鈴 『するっていった手前、お断りするわけにはいきませんし…』

18 鈴 『旦那様が琴ねえじゃなくて私の身体でも、興奮してくれたのは素直に嬉しい…です』

19 鈴 『だから私、頑張ります！』

20 鈴 『ええっと、これを手で握って…ほわっ、熱い！』

21 鈴 『あすみません…握って上下に擦るを続けて…』

22 鈴 『そしたら、何か白いのが出てくる、でいいですよね？』

23 鈴 『その白いものが、なにかわかりませんが…とりあえず擦っていきます』

24 鈴 『ただあの、ですね』

25 鈴 『私の手だと小さくて両手になりますが、それでも大丈夫なんですか？』

26 鈴 『わかりました、では両手でやっていきます』

◇油送音 SE(ゆっくり)

29 鈴 『ほおわっ、ビクビクしてて、まるで生き物みたいです…！』

30 鈴 『これを、私の手で擦る…っと…こう、ですかね？ 上、下…上、下…』

31 鈴 『っきゃ、怖い！ 怖いです！ 跳ねましたよ、これ！』

1 鈴 『どうなってるんですかっ！ あ、もしかして痛かったですか！？』
 2 鈴 『もし何かこう、してほしいこととかあればなんでも言ってください』
 3 鈴 『旦那様のこれを早く鎮めるためにも、やれる範囲でやってみますから！』
 4 鈴 『もっど？ えっと、スピードを上げてほしいってこと…？』
 5 鈴 『あっ、この返しになってるところを、もっとしてほしいんですね！』
 6 鈴 『わかりました、そこを意識しながら上下を続けますね』
 7 鈴 『上、下…上、下…さっきよりは良くなってきたんじゃないですか？』
 8 鈴 『ふふっ、最初は怖いなあって思ってたましたが、いざ始めると結構楽しいですね』
 9 鈴 『そ・れ・に・く・あ・っ・♪ うう♪ なんて甘い声を出す旦那様の姿、可愛い…』
 10 鈴 『これは役得でした、琴姉にも教えるべきでしょうか…？』
 11 鈴 『なーんて、冗談です♪ ピクって反応してる！』
 12 鈴 『ふふっ、弱点を触られて強く出れない旦那様、イイです…悪くないですね』
 13 鈴 『上、下、上、下…』
 14 鈴 『こちら！ いけませんよ、我慢は身体に毒ですからね、声を抑えてはダメです』
 15 鈴 『ほら旦那様、うーえ、しーた、うーえ、しーた♪』
 16 鈴 『いいです、その調子です、私もちよつと楽しくなってきました』
 17 鈴 『おおおお、さっきよりビクビクしてます！』
 18 鈴 『変化していく様を見るのは楽しいですね、あっ、何か透明なのが出てきました』
 19 鈴 『これは大丈夫なやつですか？ もしかして止めた方が良かったりします！？』
 20 鈴 『ええっと、つまり？ このまま続けていいんですね？ わかりました！』
 21 鈴 『…♪(鼻歌)』
 22 鈴 『旦那様、すごく恥ずかしい感じの表情してる…』
 23 鈴 『うう、気持ちよくなってくれてるのは嬉しいんです、嬉しいんですが…』
 24 鈴 『その、音が、ぐちよっぐちよってして、なんだか変な気分になりそうです』
 25 鈴 『でも、このぬるぬるが擦るのを楽にしてくれてるので、少しペースを上げますね』
 26
 27 ◇油送音 SE(早め)
 28 鈴 『だっ旦那様！？ 先っぽの方がさらに赤くなってます！』
 29 鈴 『それになんだが、今までより大きくなっています！』
 30 鈴 『爆発したり破裂したりしないですよねっ！？ 大丈夫ですよねっ！？』
 31 鈴 『い、く？ いくって、さっき言っていた白いのが出るってことですか？』

1 鈴 『出したら、小さくなるんですね？ じゃあ、出してください』
2 鈴 『大きくなって困ってるんですから、早く小さくしないと、なのですから！』
3 鈴 『旦那様の表情が苦しそうというか大丈夫ですか？ もうちょっとですよっ！』
4 鈴 『我慢せずに全部出しちゃってくださいっ！』
5

6 ◇射精

7 鈴 『きゃあっ！ 顔に、なにか…熱い…なに、これ…？』
8 鈴 『あっ、白い液体…？ 白いのが、出ましたよ旦那様！』
9 鈴 『ちよっつと匂いが気になりますが、まあここで洗い流せますし』
10 鈴 『それよりも今は…おおっ！ 小さくなってます！ 成功ですね！ ブイッ！』
11 鈴 『でも、不思議ですよー 上下に擦ったら白いの出て小さくなるなんて…』
12 鈴 『ねえ、旦那様この白いのって…？ ん？ どうしたんですか？』
13 鈴 『そんな絶望した顔をしてどうしたんです？ そこは治って喜ぶところでは？』
14 鈴 『えっ、ええ…耳を貸すぐらいであれば…』
15 鈴 『こっ、これって、そんないかがわしい行為だったんですか…？』
16 鈴 『ああっ、なるほど…だから、旦那様はそんな反応なんですね』
17 鈴 『そっいえば、私みたいな女の子に手を出すことは人の世ではいけないことだって』
18 鈴 『聞いたことがありますね…いえ、そんなに顔を真っ青にしないでください』
19 鈴 『そもそも、私は人じゃないですし、旦那様よりも長い時を生きていますから』
20 鈴 『私たちが守るべき掟にそのようなものはなかったはずです』
21 鈴 『でも…このことは私たち、2人だけの秘密、ということにしましょう』
22 鈴 『掟のうえでは大丈夫でも、もし琴ねえにバレたら…』
23 鈴 『旦那様の身に何が起こるか分かりません…ですから！』
24

25 ◇小声、耳元

26 鈴 『また大きくなってしまわれたら、私が鎮めてあげますね？』
27 鈴 『ふふっ、お先に失礼します、旦那様♪』
28
29
30
31

トラック15 姉妹の会話その4

■時間 0時頃

■場所 姉妹の部屋

1 琴 『旦那様、明日で帰っちゃうわね…』

2 鈴 『そっだよね、あっという間だったよねー』

3 琴 『うん…ねえ鈴、前に、勇気出してみたらって言ったの覚えてる？』

4 ◇少し動揺する

5 鈴 『ん？ うん、覚えてるけど』

6 琴 『私ね、明日の旦那様との最後の夜、旦那様にアプローチしてみる』

7 鈴 『ほんと！ なになに！？ なにするの！』

8 琴 『ええっと、そんな食いつかれると言いつらいわ…』

9 鈴 『ああつ、ごめんごめん、それで？ アプローチって例えばどんな』

10 琴 『い、言わなきゃだめ？』

11 鈴 『えっ、逆にそんな言いにくいことするつもりなの？ ちょっと引くよっ』

12 琴 『言いにくいことっていうかその…色仕掛け的な、ね？』

13 鈴 『おーっ…あー、はいはい、あー、そういうやつね』

14 ◇小声で

15 鈴 『旦那様の凄いから琴ねえ大丈夫かな…』

16 琴 『え、なに？ よく聴こえなかったんだけど…』

17 鈴 『うっん、なんでもない！ いやあ、これは琴ねえも隅に置けないねえ』

18 琴 『どう、かな』

19 鈴 『いいんじゃない？ 琴ねえ、がそうするって決めたのなら、きっと上手くいくよ』

20 鈴 『私は、応援してる』

21 琴 『うん……うっっっ…やつぱり恥ずかしいよお…』

22 鈴 『ふふっ、そういう琴ねえも可愛くていいと思っよっ』

23 鈴 『眠くなってきたから、私はもう寝まーす』

1 鈴 『琴ねえは色々悶えると思うけど頑張って!』
2 琴 『もう、自分には関係ないからって…はあ…おやすみ』
3
4 (小声で)
5 琴 『きっと大丈夫、何も問題ないわよね…』
6 琴 『だって旦那様は……』
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

トラック16 最後の夜に琴と

■時間 23時頃

■場所 宿泊部屋

◇襖の音 SE

『旦那様失礼します、今夜は旦那様からお呼びいただけて嬉しいです』

『私もちょうど、お話したいと思っていましたので…』

『明日、旅立たれるんですね…』

『思えば旦那様は初めてお会いした時から不思議な人でした』

『旦那様が幼少期の頃にお会いしていたことを忘れたまま再会して…』

『それから、お客様として宿泊され、一緒に働くことになって…』

『旦那様と一緒に過ごした時間はとても充実したものでした』

『そして、これからも私は…旦那様の事をずっと覚えておきたいと思ひまして…』

『今夜は大切な時間にしたいのです…いい、ですよね…？』

『そのまま動かないで…私の目を見て…旦那様』

『ちゅっ……口づけしちやいましたね、私の初めてです』

『いつか誰かにとっと思っていましたが、その相手が旦那様に相応しいと思ひまして』

『私、旦那様のことを思うと、胸がいつぱいで張り裂けそつで…』

『もっと旦那様の事をこのまま見ていたい…』

『こんなに近くで…旦那様のお顔を見られるのは、良いものですね…』

『見惚れて…うつとりしてしまいます…あっ…』

『続き…しますね』

◇主人公の背中に手を回す SE

『口づけより後になってしまいましたが、旦那様を抱きしめたくなりまして』

『ああっ……旦那様からも…私よりも大きな手の温もりを感じます』

『抱きしめられるほど…私の心の想いが紡がれていくようで…』

『うっん、取り繕った言葉なんて不要で、もう私充分幸せです……』

『でも、その…私の足に、旦那様の、当たっていますよ…』

『どうして、こんな風になっているんでしょうか…？』

『私、人ではないのですよ…そんな私でも…興奮されたのですか…？』

1 琴 『ふふっ、旦那様はまっすぐすぎます…』
2 琴 『そんな旦那様だからこそ惹かれたのかもしれないね』
3 琴 『膨れ上がっている旦那様のモノ…包み隠さず見せてください』
4 琴 『動かずに大人しくしていて…脱がしづらいですから』
5

6 ◇服を脱ぐ音SE

7 琴 『これが人の…男の…旦那様のモノ…なのですね』

8 ◇眼鏡をクイッとする動作音SE

9 琴 『へえ〜ほお〜ふうん…ふむふむ…あっ…すみません』

10 琴 『間近で見るのは初めてで…人の…男性のモノはなおさら』

11 琴 『ちよっと興味が出てしまっていて、あっ、その…失礼でしたか…？』

12 琴 『ありがと〜ございます…触ってみてもいいでしょうか？』

13 琴 『すこい…ビクン、ビクンって脈打っています…』

14 琴 『すく、いやらしい匂いをしています…なんだか私まで…』

15 琴 『見たいて何…？ 私の胸ですかっ？』

16 琴 『ええ、私も脱ぐんですか…？ うう…旦那様がそこまで言うのでしたら…』

17 ◇服を脱ぐ音SE

18 琴 『あまり、じろじろ見られるの…恥ずかしいです…旦那様…』

19 琴 『どうですか、形変じゃないですか…？』

20 琴 『そう言ってくださると嬉しいです、ありがと〜ございます』

21 琴 『見られていると変な感じがして…その、アソコが…』

22 琴 『きゃっ、旦那様、いきなり手をアソコに触るのはっ！？』

23 琴 『もう、胸までっ…やあんっ…んあっ…あんっっ…ひやあん…』

24 琴 『んう……んんっ……誰かに触られるってこんな…』

25 琴 『あっ、ええ……どうしたんですか、急に手を止めて…』

26 琴 『えっ、ああ、濡れてる…？ 私、濡れているんですか……？』

27 琴 『自分の体なのに不思議な感じです…』

28 琴 『初めてです、私の大事なところが、こんなに濡れているのは…』

29 琴 『旦那様だからでしょうか…いえ、それしか考えられませんね』

30 琴 『あの、私、交えたことがなくて知識だけなんです…』

31 琴 『全て、旦那様に委ねようと思います』

1
2 ◇布団に寝る音SE
3 琴 『私は旦那様を信じていますから…このまま来てください』
4 琴 『私も覚悟…できていますので』

5
6 ◇挿入音SE ※以降 体位は正常位

7 琴 『うっ…あああっ……！ 旦那様の硬いものが入って来てる…んんんっ！』
8 琴 『こんな、いきなり……奥まで入れるなんて…はあ……すうーはあ……』
9 琴 『ふう…すう……うっっ……はあ…すう……』
10 琴 『うっうっ…全部入りましたが、さすがにいきなり過ぎました…』
11 琴 『痛くないと言えは嘘になりますが…私は大丈夫です』
12 琴 『私は旦那様と繋がることができて嬉しいのです…』
13 琴 『旦那様、もっとお顔を寄せてください…ええ、そうです…』
14 琴 『ちゅっ……ふふ、今夜は何回でも口づけしてしまいますね…』
15 琴 『幼い頃の旦那様のことは忘れてしまっていました、今度ははっきりと…』
16 琴 『旦那様のことを絶対に忘れないように、目に焼き付けたいのです』
17 琴 『この痛みも怖くはありません、旦那様がそばにいてくださるのですから』
18 琴 『ふう…少し痛みも引いてきました…このままじっとできないですよね？』
19 琴 『だって、旦那様のその表情…切なくて動きたいってお顔になっていますよ…っ』
20 琴 『もう、動いて…いいですよ、私なら大丈夫、ですから…！』
21

22 ◇油送音SE(ゆっくり)

23 琴 『はあ……あああっ……うんっ……はあ……ふう……ああっ』
24 琴 『んっ…あっ…いっ…はあ…あんっ……ふあっ…あんっ……』
25 琴 『あんっ…んんっ…ひうっ…ああっ…はあ……ふう……ああん……』
26 琴 『んんっ、あああっ……いっっ…あんっ…んんっ……』
27 琴 『なんです？ え、私の声で、すかあ…？』
28 琴 『そんなこと言われても、ひゃあん…これは我慢できるものではありませんっ！』
29 琴 『抑えても、でちゃうんです…やあんっ…ああっ』
30 琴 『私の大事なところも、じゅぷじゅぷっって音が出ていますっ！』
31 琴 『このような音を聴いていると私まで、変な気分になってしまいます』

1 琴 『ああっ……どうされましたか、旦那様、さっきまでと表情が…』
2 琴 『それになんだか、ナカで大きくなっているような感覚があります…』
3 琴 『もしかして、出そうですか？』
4 琴 『早い気がするだなんて…いいえ、私はそんなこと気にしませんよ』
5 琴 『だって、これは旦那様が私で気持ち良くなっている、ということなのですから』
6

7 油送音SE(早め)
8

9 琴 『あああっ……んう……はあ……あっ、あんっ、んんっ……はあ、ああっ』
10 琴 『あっ、はあん……はあ……あうっ……はあっ……んあっ…』
11 琴 『いいですよ、旦那様、もう出そうなのですよね！?』
12 琴 『私は大丈夫ですから、我慢しないで、私ので気持ち良くなってくださいっ……!』
13 琴 『たしか、イク……って言うんでしたよね? イってください旦那様!』
14 琴 『旦那様のすべてを、解き放ってくださいっ……!』
15

16 ◇射精
17

18 琴 『ああっ……出ています…これが旦那様のイクってことなのですね…嬉しい…』
19 琴 『旦那様の熱いのが、私のナカでいっぱい満たされています……』
20 琴 『体がフワフワ宙に浮くような不思議な感覚で…』
21 琴 『なんと表現したらよいのでしょうか…沢山の幸せに包まれているような感覚です…』
22 琴 『私、頭ぼーっとしてしまいます、本当旦那様とは初めてづくしですね…』
23 琴 『あの…旦那様、人の世に戻られても…』
24 琴 『この禄寿旅館のこと、鈴のこと、そして私のこと、覚えていてくださいね』
25 琴 『あなたは最高のお客様で旦那様です、素敵な時間をありがとうございました』
26 琴 『またのお越しをお待ちしておりますね』
27
28
29
30
31

トラック17 エンディング

■時間 14時頃

■場所 旅館受付

◇何か環境音が雑巾で作を拭いている作業SE

鈴 『琴ねえ、こっち終わったよー』

琴 『鈴、次はあっちの床を拭いて、旦那様は倉庫に行って…』

鈴 『ただだよ、琴ねえ、旦那様は帰ったんだからもう居ないのにー』

琴 『あっ…ごめんなさい、旦那様が居た頃の癖が中々取れないわね』

鈴 『一緒に居た時間、楽しかったもんね…旦那様、向こうでも元気にしてるかなあ…』

琴 『きっと…元気にしてるわよね、だって、あの旦那様だもの』

鈴 『そうよね、私も元気な旦那様を鎮めるって約束したから大丈夫よ、うん!』

琴 『鈴、今のってどういう…』

◇入口が開く音SE

鈴 『あ、しまっ…そっだ、琴ねえ今誰か来たよ、お客様の……えっ? ああっ!…!』

琴 『鈴ったら、そんなに驚いてどっしたのよ』

琴 『…あれ? でも鳥居の結界を通り抜けてこられる人は…って、ああああっ!』

鈴 『ねえ、琴ねえ、驚いてないで、お客様が来たんだから、あれっ!』

琴 『あっ、そうね、いつものね…ふう…』

琴&鈴 『お客様、禄寿旅館へようこそ!…!』

琴 483 フー
鈴 439 フー